

北斗晶さん手術 高まる関心

乳がん検診 希望急増

元女子プロレスラーでタレントの北斗晶さん(48)が乳がんのため右乳房の全摘出手術を受けて以降、さまざまな啓発情報が発信される10月の「乳がん月間」とも相まって、兵庫県内の病院などでも乳がん検診や受診希望者が急増している。医師らは反響の大きさに驚きつつ、「どんなきっかけでも自分の体に関心を持つことは大切」と強調する。

(中川 恵)

受診希望者の急増に伴い、受付に置かれた注意書き＝西宮市和上町、さきたクリニック



今月啓発月間

医師 「常に自らチェックを」

北斗晶さんが翌日に手術を0人となり、今も問い合わせを受けることを自身のブログで発表したのは9月23日。

せが相次ぐ。

新須磨病院(同市須磨区)外科・乳腺専門医「さきたクリニック」(西宮市)は通常1日200〜300件というホームページのアクセス数が、一気に千件を超えた。

岡本クリニック(神戸市中央区)では外来の問い合わせが通常の3倍近くになり、年内の予約は厳しい状況。検診車による乳がん検診を受け付ける県予防医学協会でも、1日平均30人だった予約が発表直後は15

切羽詰まった様子で来たりしている」と話す。

どうして、ここまで影響が広がったのか。さきたクリニックの先田功院長(57)は、北斗晶さんの初期症状が痛みだった点と、毎年検診を受けていたのに全摘出手術になった点を挙げる。特に問題がなくても乳房の痛みを感じることはあるが、北斗晶さんをめぐる報道で「乳がんでは」と敏感になっているという。

一方、早期発見すれば、乳房の温存や治療方法の選択にもつながる。国は乳がん検診を「40歳以上、2年に1回」と指針で定め、それに応じて各自治体がクーポンを配るなどして推進している。

先田院長は「受診者増に比例して乳がんが見つかる人の数も増えているが、検診を受けてから次の検診までに発症するがんもある。胸を触ってみるなど、普段から自分の体に興味を持ってほしい」と呼び掛ける。

PRイベント 神戸は来月7日

「乳がん月間」の10月は、各地で早期発見や検診の大切さを呼び掛ける「ピンクリボンフェスティバル」が行われている。神戸では同フェスの一環で11月7日、三宮・東遊園地を発着とした「スマイルウオーク」がある。

定員は10ヶ所が1350人、5ヶ所が1650人(いずれも先着順)。終了後にはタレントの三船美佳さん、愛知県がんセンター中央病院の岩田広治副院長によるトークショーが予定されている。

10月29日までに申し込みが必要で、一般1500円、中学生以下無料(定員に達していない場合、当日受け付けも。一般2千円)。申し込み専用ダイヤル0570・550・846(平日午前10時〜午後5時半)